

## TOPICS

## 酸化白色ハイ土の実用化

— 県内産陶石で新しいハイ土を開発 —

※ハイ土:陶磁器素地用の練土・ねん土

## 九谷焼技術センター

高橋 宏 (たかはし ひろし)

thiroshi@irii.jp

専門：陶磁器

一言：九谷焼の伝統を守る一助になりたいです。



近年、若手作家・窯元を中心に電気炉が普及してきています。電気炉は、大気中の酸素が十分にある状態で焼成する、酸化焼成に最適です。しかし、従来のハイ土を酸化焼成すると黄色味を帯びるため、酸化焼成で白く焼きあがるハイ土が求められていました。

そこで、白山市(旧鳥越村)で豊富に産出する河合陶石1級が酸化焼成後の焼成色が非常に白いことから、この陶石を用いた酸化焼成用の白色ハイ土の開発に取り組みました。

ハイ土の開発では、河合陶石を可能な限り多く配合するように検討し、河合陶石1級を最大70%配合することができました。酸化焼成による従来のハイ土の白さは、明

度の値で80以下ですが、今回開発したハイ土は、明度の値で85以上を達成しました。

また、ロクロ成形しやすいように、異なった大きさの粒子がどのように分布しているかという粒度分布についても調べたところ、従来の九谷焼用ハイ土の粒度分布に近いと、成形性が向上することがわかりました。図に開発したハイ土を用いた試作品を示します。

今年の8月に地元製土所において量産試験を実施し、実用化に向けて技術移転を進めていますが、地元陶磁器業界の皆様にご親しまれ、定着できるハイ土となるように、今後も改良を進めていきます。



□ 開発したハイ土を用いた試作品(径約24cm)